

#### ■（４９）教壇と子供たちとの距離＝新聞と読者？

甲子園出場校の教壇に立たせてもらった。受験や就活を控えた３年生約８０人に新聞の読み方・使い方を５０分で伝えた。記者が日常使うノートやペン、スクラップ帳など準備を整えたつもりだった。だが、生徒たちを話に巻き込めたかと言えば、満足できなかった。

新聞も読者との距離をどう縮めるかが常に課題になっている。もちろん記事を通じて、多くの共感を得られるならば、それが一番。だが、逆に読者と遠くなっているのではないかという懸念の方が最近はむしろ強い。読者の声を反映させるため、投書欄や質問・意見を受け付ける専用電話、読者の紙面モニター制度がある。記事に書いた記者の署名をつけることで「顔の見える新聞」を目指す動きもあった。最近インターネットのコミュニティサービスを通じた新聞社や記者個人との対話の場も広がる。答えは見つからない。

元に戻って、高校の大教室。小論文対策に新聞が使えるかもテーマだった。材料の蓄積や自分と違う意見を知るには役立つだろう。そして学校や会社の試験担当者との距離の計り方… 驚かせるのがいいのか、共感してもらうのがいいのか。新聞と同じく難しい（山）